

化学物質被害



愛媛の20代 救済拡大に期待

極微量の化学物質で体
調が弱れる化学物質過敏
症(COS)と労災病院や国
立療養所病院で診断され

た愛媛県内の20代の男性
会社員が、労災認定を受
けていたことが11日、分
かった。COSと診断され

た人の労災認定は厚生労
働省に報告がなく、初の
労災認定事例とみられ

るCOSは「シックハウス
症候群」の重症例とも指
摘され、今回の認定で化
学物質による深刻な健康

被害の全體に光が当たる
きっかけになりそうだ。
男性会社員は昨年5月
以降、職場で塗料に含まれ

れる化学物質を直接吸つ
たことが原因で高熱と頭
痛、気管支せんそくが出
て、愛媛県内の労災病院
に緊急入院。この後、紹
介された岡山県の国立療
養所南岡山病院で、化学
物質が遮断された「クリ

や避難、通勤中の化
学物質を含むCOSが起
つかれになる。発症以降
は、多種類で微量の化学
物質に反応するため、精
神疾患とも誤解されるこ
とにから、社会的な理
解が課題になつてゐる。